

## 第4部 地域別構想



### 第1章 地域別構想の概要

#### 1 地域別構想の役割

本マスタープランの地域別構想は、まちの将来像の実現に向けて、それぞれの地域の特性を活かして、今後10年間で取り組むべきまちづくりの方針を示しました。また、それぞれの地域には、大きなまちの動きとして具体的な計画がされている事業などがあり、その地区については「鉄道駅周辺地区」として、まちづくりの状況や方向性などを示しました。

このことで、市民、事業者、そして市が、地域ごとの将来のまちづくりの方向性を共有し、市民主体の地区まちづくりの推進につながっていくことを期待するものです。

#### 2 地域区分の考え方

本マスタープランにおける地域区分は、市域を西地域、中央地域、東地域の大きく3地域としました。

この地域区分は、市民生活と密接に関わる「まとまり」としての町丁、コミュニティの中心である小学校区・中学校区、現在の地域包括支援センターを中心とした高齢者の日常生活圏域、市民アンケート調査結果から考えられる生活行動を考慮しています。

今後の都市のあり方において、あらゆる都市機能をバランスよく配置して互いに分担・連携しあうという考え方や、まちの一体性・連続性を踏まえると、必ずしも明確に地域を区分する必要はないことから、地域をまたいで緩やかに区分していることも特徴です。

なお、地域区分は、上記の観点を考慮して設定したもので、これまでの地域コミュニティなどに影響を与えるものではありません。



## ■ 地域区分



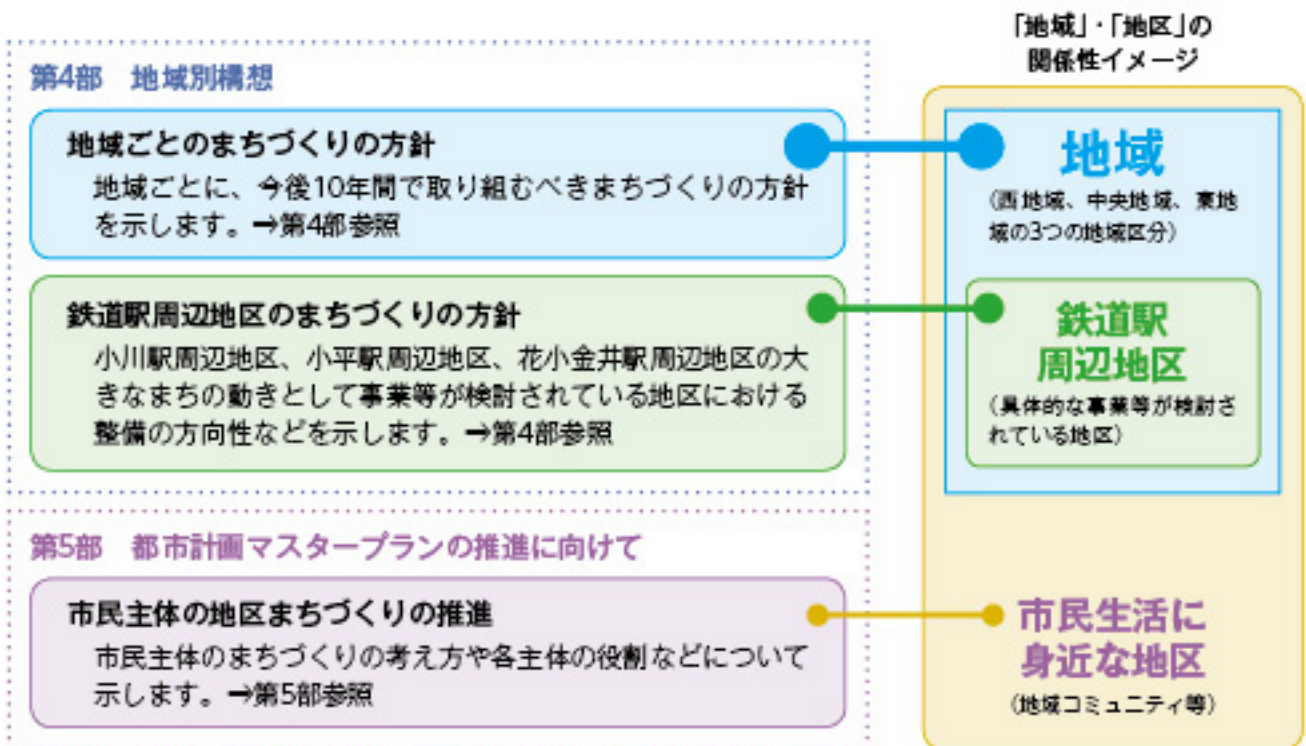
### 3 「地域」と「地区」の考え方

これまでのマスタープランにおける「鉄道駅を中心とした生活圏の形成」という考え方は、小平市の都市構造においては重要な要素であるためこれを踏襲しつつ、全体構想で示した、これらの鉄道駅ごとの「メリハリのある役割・機能分担」という考え方を地域別構想においても踏まえる必要があります。

本マスタープランの地域別構想における3つの「地域」には、今後、市街地再開発事業が計画されている小川駅や小平駅、及び新五日市街道線（小平3・3・3号線）の整備と鉄道立体化の実現を推進する花小金井駅がそれぞれ位置しています。そこで、これらの具体的な事業などが計画されている「地区」を「鉄道駅周辺地区」としました。

また、今後のまちづくりにおいては参加と協働のまちづくりが重要です。そのため、各地域や鉄道駅周辺地区の方針を市民や市などが共有し、地域の課題の解決に向けた市民主体のまちづくりに取り組む「市民生活に身近な地区」を設定しました。

## ■ 第4部「地域別構想」と第5部「都市計画マスタープランの推進に向けて」の関係性



## 第2章 地域ごとのまちづくりの方針

第2章では、全体構想の「まちづくりの目標」に基づき、地域ごとのまちづくりの方針を設定しています。

■ まちづくりの目標と地域別のまちづくりの方針の関係図

地域別の まちづくりの方針	西地域						中央地域					東地域						
	みどりを活かした生活空間の形成	民間活力を活かした新たな拠点づくり	良好な道路交通ネットワークの形成と沿道のまちづくり	学生・商店主（事業者）と連携したまちの活性化（鷹の台駅周辺）	将来にわたって快適で衛生的な生活に向けた施設更新	防災性向上に向けた地区まちづくり	住民参加による地区まちづくり	シックゾーンを有する地域としての拠点性の向上	良好なみどりの空間の保全・活用	民間活力を活かした新たな拠点づくり	ひとが中心の魅力的な都市軸の形成	商店街を中心としたまちの活性化	老朽化したまちの再生	にぎわい拠点としての充実・強化	質の高い幹線道路整備と適切な沿道まちづくり	駅周辺の一体的なまちづくり	大規模敷地の配賦ある土地利用の促進	良好なみどりの空間の創出
まちづくり の目標																		
“顔”をもった まちをつくる		●	●	●				●	●	●	●		●	●	●			
“みどり”を 感じられる まちをつくる	●	●	●					●	●	●	●				●		●	●
“にぎわい”を育む まちをつくる	●	●		●					●	●	●	●		●	●	●		●
“ひと”にやさしい まちをつくる	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
市民の“ちから”を 活かせる まちをつくる		●	●	●		●	●		●	●	●	●		●		●		●



## 1 西地域 <小川駅周辺、鷹の台駅周辺、東大和市駅周辺>

### 1-1 西地域の特徴

- 市域の西部に位置しており、地域内には小川駅、鷹の台駅、東大和市駅の3つの鉄道駅があります。
- 近世の小川村の開発の名残として、南北に細長い短冊型の区画、農地が残り、市内でも豊かな緑を感じることができる空間が広がっています。
- 小川町地域を中心に、青梅街道に沿って屋敷地・屋敷林、小川用水、農地と続く土地利用が特徴的です。
- 近年は土地区画整理事業により、地域の特徴である農地との調和を図った都市基盤や住宅地の整備も進められています。
- 地域の特徴として、株式会社ブリヂストンなどの大規模な事業所、大学などの教育文化施設といった、まとまった規模の施設の立地がみられます。

#### ■ 特徴的な資源・施設等

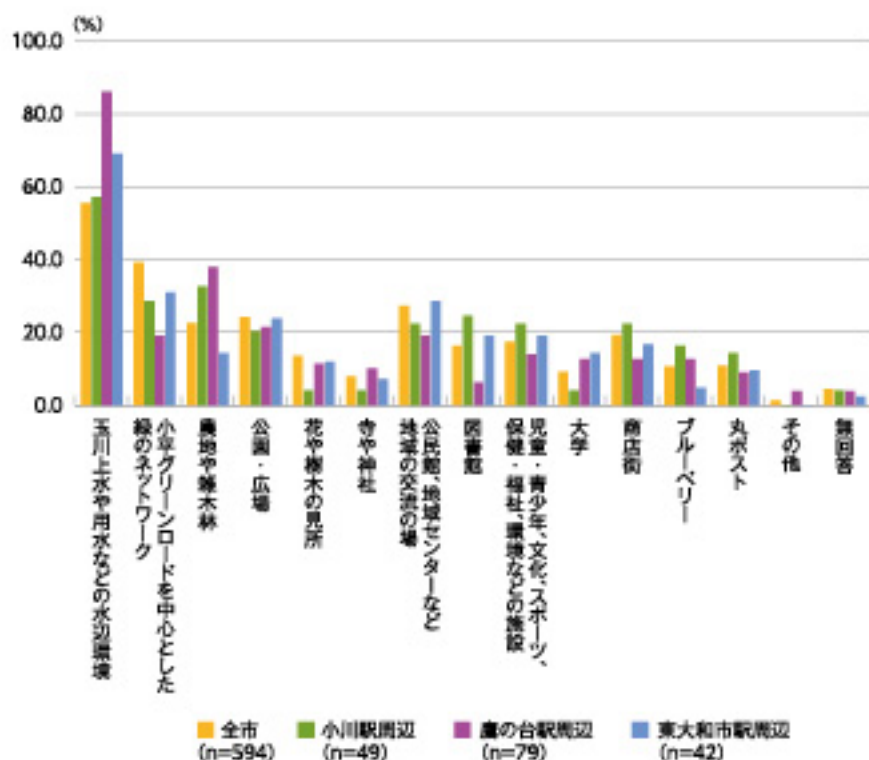
小川駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 駅東側には、株式会社ブリヂストンが立地し、多くの関連施設(従業員向け住宅、体育館、運動場等)も集積しています。</li><li>● 駅西側は、職業能力開発総合大学校、東京障害者職業能力開発校、都立小平特別支援学校、都営住宅、財団法人多摩緑成会病院、小平市立障害者福祉センター、小平市立高齢者館などの福祉施設や公共公益施設などが立地しています。</li></ul>
鷹の台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 駅周辺に、津田塾大学、白梅学園大学、武蔵野美術大学、朝鮮大学校、創価高等学校のほか、小・中学校など多くの大学や教育施設が立地しているため、若者が多いまちとなっています。</li><li>● 駅東側は、小平中央公園、総合体育館など、市民のスポーツ・レクリエーション拠点が形成されています。</li></ul>
東大和市駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 都市計画道路の整備、近接する玉川上水駅からアクセスできる多摩都市モノレールや民間バス路線により、立川方面などの市外へのアクセス性に優れています。</li><li>● 東大和市やその周辺地域に商業施設が点在しているため、周辺住民の生活利便性は高いという声があります。</li><li>● 玉川上水、野火止用水、用水路や東京都薬用植物園などに囲まれ、自然を楽しむ拠点が形成されています。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域の周囲は玉川上水や野火止用水に沿って小平グリーンロードが整備され、散策路や憩いの空間が形成されています。</li><li>● 屋敷地裏の用水路や小道(たから道)、その背後の農地など、江戸時代の開発当時の暮らしぶりを感じることができる風景が残っています。</li><li>● 風致地区に指定されている青梅街道沿いには、ひときわ目を引く立派な屋敷林が残り、心地よい緑陰空間を創出しています。</li><li>● 豊かな自然環境が残っており、小動物や猛禽類の生息が確認されています。</li></ul>



## ■ 主なまちづくりの動向

小川駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川駅西口地区の市街地再開発事業に向けた計画が進んでおり、にぎわいの創出や生活利便性の向上が図られ、西地域の大きな拠点としての役割が期待できます。</li> <li>小平大和線（小平3・4・10号線）の一部区間が優先整備路線に選定され、整備による道路交通ネットワークの形成や防災性向上などの効果が見込まれます。</li> <li>築年数の古い木造住宅の密集が見受けられる地域では、居住者の高齢化も進んでおり、まちの動きに合わせた改善が必要とされています。</li> <li>開発・生産拠点の再構築を進めている株式会社ブリヂストンとの連携により、民間活力を活かしたまちづくりが期待できます。</li> </ul>
鷹の台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺のまちづくりの一環として、小平都市計画公園（3・3・4鷹の台公園）の整備に向けた検討が進められています。</li> <li>府中所沢線（小平3・2・8号線）の整備が進められており、地域の南北の道路交通ネットワークの充実や新たなみどりの創出、歩行者や自転車のための空間整備とともに、これを契機とした鷹の台駅周辺のにぎわいの創出も期待できます。</li> </ul>
東大和市駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川橋青梅橋線（小平3・4・24号線）、新五日市街道線（小平3・3・3号線）の一部区間の整備が進められ、立川駅や東大和市方面への南北の交通利便性が向上するとともに、渋滞の緩和など安全の確保が図られます。</li> <li>新五日市街道線（小平3・3・3号線）の一部区間や国立駅大和線（小平3・4・23号線）の整備を契機に、沿道の土地利用に向けた検討が進められています。</li> <li>中島町には、市のごみの中間処理を東大和市と武蔵村山市との共同で行う小平・村山・大和衛生組合がありますが、ごみ焼却施設と粗大ごみ処理施設の老朽化などに伴う施設の更新が課題となっています。</li> </ul>

## ■ 小平で大切にしたいもの、活かしたいもの（平成26年度市民アンケート調査 問5）





## 1-2 西地域のまちづくりの方針

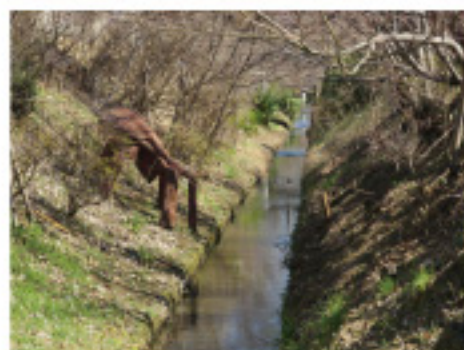
西地域は、小平グリーンロードに囲まれたなかに、新田開発の名残を感じられる短冊型農地、風致地区の指定を受ける青梅街道、玉川上水、野火止用水や用水路など、本市のなかでも特に豊かなみどりを楽しむことができる地域です。今後も、地域の特性を活かした豊かなみどりを感ずるくらしのあるまちづくりを進めます。

一方、小川駅西口地区市街地再開発事業をはじめ、府中所沢線（小平3・2・8号線）や小平大和線（小平3・4・10号線）の一部区間の整備、周辺企業における開発・生産機能の再構築などのまちの動きもあることから、これらを契機として、地域のにぎわいを醸成するとともに、誰もが安心できるくらしの確保や地域の交流の場の創出に取り組みます。

また、市内で不足する都市機能については、国立駅大和線（小平3・4・23号線）、小川橋青梅橋線（小平3・4・24号線）、新五日市街道線（小平3・3・3号線）の一部区間による道路・公共交通ネットワークの充実・強化を図ることで、多摩地域の拠点である立川駅周辺との分担・連携を進め、全体としてより魅力あるまちづくりをめざします。

### ①みどりを活かした生活空間の形成

- 地域の大きな特徴である、小平の新田開発の歴史を伝える短冊型の地割と農地が織り成すくらしの風景、玉川上水や野火止用水沿いのみどりは、引き続き良好な住環境を形成する資源として保全・活用を図ります。同時に、これらの場所に見られる生物多様性の保全に努めます。
- 玉川上水と野火止用水に挟まれた地域に小川用水、新堀用水が流れる豊かな水辺環境、また小川用水に並行した「たから道」や歴史的な地域資源である新堀用水の「胎内堀」などの小平のふるさとの風景の保全を図ります。
- 多くの人が訪れる小平中央公園や東京都薬用植物園といったみどりの拠点の維持・充実を図るとともに、鷹の台駅西側の小平都市計画公園（3・3・4鷹の台公園）の整備などにより、市民の憩いの場としての緑地空間の確保を進めます。
- 小平グリーンロードを南北に結ぶ府中所沢線（小平3・2・8号線）は、市内の回遊性の向上に向けて、今後の道路整備の際には沿道の緑化などについて東京都と調整を行います。
- 小川四番土地区画整理事業が検討されている地区は、農地がもたらすみどりを意識した住環境の形成に配慮します。
- 屋敷林や神明宮の社寺林などの地域の貴重なみどりの保全、用水路の親水整備、住宅地の緑化などを行うことで、小平グリーンロードや青梅街道の風致地区を軸とした、より良好な水と緑のネットワークの形成を進めます。
- 西地域の特徴を活かすことで、観光まちづくり振興プランで掲げる「都会から一番近いプチ田舎」が感じられる、歩いて楽しめる子育て世代から高齢者にも好まれる空間を創出し、健康増進にもつながるまちづくりを推進します。



## ②民間活力を活かした新たな拠点づくり .....

- 小川駅西口地区は、平成26年2月に市民、事業者、市によって策定された「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」に基づいて、西地域の新たな拠点の形成に向けたまちづくりを推進しつつ、この大きな動きを契機として、一体のまちの更新を図ります。
- 小川駅周辺は、駅東側は、株式会社ブリヂストンが立地し、また駅西側は、病院、福祉施設、学校などの公共公益施設が立地した福祉のまちという特徴があることから、今後も、それぞれの特徴にふさわしい土地利用を維持しつつ、一体的なまちづくりに向けた関係機関への働きかけを進めます。

## ③良好な道路交通ネットワークの形成と沿道のまちづくり .....

- 市内の円滑な道路交通ネットワークを形成する都市計画道路である府中所沢線(小平3・2・8号線)、小川橋青梅橋線(小平3・4・24号線)については、西地域の風景や環境に配慮した整備を進めるよう東京都へ引き続き働きかけます。
- 将来的に小川駅と小平駅の拠点間を結ぶ小平大和線(小平3・4・10号線)の一部区間が優先整備路線に選定されたことから、西武線との交差部については関係機関との協議を進めながら周辺環境に配慮した整備を図り、小川駅周辺の基盤整備や道路・交通ネットワークの改善を進めます。
- 府中所沢線(小平3・2・8号線)は、歩行者や自転車利用者にやさしい、周辺環境と調和した空間となるよう東京都と協力して整備を進めます。また、この道路の整備によって役割が変わることが想定される府中街道については、地域住民とともに沿道の一体的なまちづくりを検討していきます。
- これらの都市計画道路の整備に伴い沿道の環境が大きく変わるため、西地域の特徴的なみどりの風景に配慮することを基本に、沿道機能の増進や地域活性化、居住環境の保全など多様な観点に留意した適切な土地利用のあり方について検討します。



### ■ 府中所沢線(小平3・2・8号線)整備イメージ

玉川上水との交差部付近(イメージ図)



※今後、交通管理者、地元市等と協議をした上で、交差点の形状等について詳細な検討を行います。

出典：「環境影響評価書 一分野寺都市計画道路3・2・8号府中所沢線及び小平都市計画道路3・2・8号府中所沢線(園分寺市東戸倉二丁目～小平市小川町一丁目間)建設事業」(平成24年11月 東京都)



#### ④学生・店主(事業者)と連携したまちの活性化(鷹の台駅周辺).....

- 鷹の台駅周辺は、駅西側においては小平都市計画公園(3・3・4鷹の台公園)の整備、駅東側においては府中所沢線(小平3・2・8号線)の整備などを契機に、玉川上水、その周辺の緑地、小平中央公園などとの一体的なまちづくりに配慮し、地域の大学などと鷹の台駅周辺の商店街との連携による交流の場づくりなど、地域が一体となった鷹の台駅周辺のまちの活性化を図ります。

#### ⑤将来にわたって快適で衛生的な生活に向けた施設更新.....

- 小平・村山・大和衛生組合では、ごみの適正処理を安定的に継続することを通じて、将来にわたって快適で衛生的に暮らせるよう、ごみ処理施設の更新(不燃・粗大ごみ処理施設およびごみ焼却施設の整備)を進めます。これらの施設は、資源化推進などによるごみの減量を踏まえた将来ごみ量に応じた適切な規模としつつ、発電などの熱利用の設備を設けるなど、より環境に配慮した施設とします。

#### ⑥防災性向上に向けた地区まちづくり.....

- 小川駅周辺には、主に木造住宅を中心とする住宅が密集し、狭い道路が多い地区があるため、地区の住民による防災まちづくりに対する意識を高めるとともに、建物の不燃化、耐震化など、防災性の高い良好な住環境の形成に向けた検討を進めます。

#### ⑦住民参加による地区まちづくり.....

- 小川住宅は、建替えに向けた検討が進められていることから、誰もが安心して暮らし続けることのできる団地再生への取組みとして、一団地の住宅施設の廃止や地区計画の策定に向けた支援をするなど、住民参加によるまちづくりを進めます。





## 1-3 鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針<小川駅周辺地区>

小川駅周辺地区は、狭い生活道路、西口の駅前広場の未整備、地域のにぎわいの減少など、さまざまな課題を抱えています。これらの課題を改善し魅力的なまちづくりをするため、平成19年5月に小川駅西口地区市街地再開発準備組合が発足され、整備検討が進められてきました。また、市では、平成26年2月に、市民、事業者、市の参加により、「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」を策定しました。

現在、小川駅西口地区は、東京都の「都市再開発の方針」において、再開発を促進する地区と位置づけられており、環境保全などに配慮しつつ、商業施設・住宅などが共存する複合的な市街地として整備を図る市街地再開発事業の検討が進められています。

### ①小川駅周辺地区の状況

小川駅周辺地区は、次のような課題を抱えています。

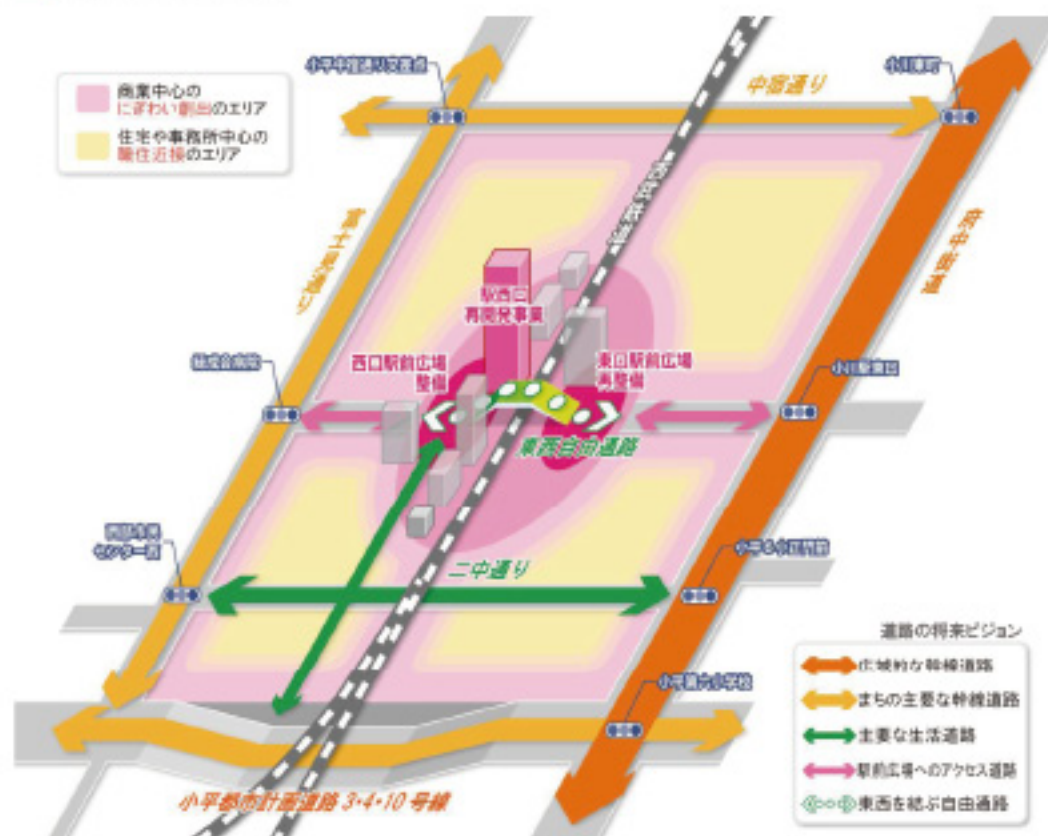
- 駅西口は空間が狭く、歩行者、自転車、自動車が入り混じり、またバスやタクシーが駅前へ進入することはできないため、交通の結節点としての駅前広場の整備が必要です。
- 駅の東西をつなぐ二中通りや中宿通りは、通過交通の車も流れ込むことから、危険や不便を感じるという声があります。
- 地区内の生活道路の多くは幅員が狭く、歩行者、自転車、自動車の混在により危険を感じることもあり、安心して通行できる環境が求められています。
- 狭い道路に沿って多くの古い建物が見られるため、大きな災害があった際には、建物の延焼や倒壊などの不安があります。
- 小川東町、小川西町を結ぶ通路は、踏切以外では、駅の東西自由通路のみとなっており、その通路も、東西の結びつきを積極的に担うものには成り得ていません。
- 駅周辺は文教施設や福祉施設などが立地し、大勢の人が行き来する地区でありながら、道路には幅員の狭い箇所や、通りづらい箇所があるため配慮が必要です。
- 駅周辺の商店街には、通勤や通学の時間帯を除くと人通りは少なく、駅周辺にふさわしいにぎわいは見られません。
- かつてのにぎわいの減少や、住宅地にふさわしい自然環境の乏しさなど、「まちの個性」と呼べるものが見えにくい状況です。

### ②小川駅周辺地区のまちづくりの方針

- 小川駅西口地区の市街地再開発事業は、土地の高度利用による住宅、商業施設、公共施設などが入った高層タワーを地区のシンボルとして、駅前広場、道路、公園、自動車駐車場、駐輪場などとともに整備し、西地域のみどりあふれる良好な住環境に配慮しつつ、商業・業務機能の充実を図るため、地権者を中心とした組合と連携して、民間活力を導入したまちの一体的な整備を推進します。駅東口は、駅西口の状況を見ながら、面的整備手法も視野に入れ、より利便性の高い駅前空間の整備に向けた検討を進めます。
- 駅周辺は、狭い道路や行き止まり道路の解消、生活道路のバリアフリー化などによる安全で安心な歩行空間を確保し、同時に、緑地や空地などの空間整備、延焼遮断機能の形成や周辺地域の不燃化を促進し、ユニバーサルデザインや防災面に配慮したまちを形成します。

- 駅西口地区の整備によって増加する交通量にふさわしい道路の確保と二中通りや中宿通りへの通過交通を減少させる必要があるため、優先整備路線に選定された小平大和線（小平3・4・10号線）の整備を鉄道との立体交差により進めることで駅の東西方向を結び、歩行者や自動車などが安全に通行できる道路幅員を確保するなど、駅周辺の交通の円滑化を図ります。また、駅へのアクセス道路や中宿通り、富士見通りなど人通りの多い道路については、歩行空間の確保やベンチ、花壇を設置するなど、誰もが楽しく歩いて回れる道路整備を進めるとともに、駅東西の交流がさらに促進できるよう、東西自由通路の整備を検討していきます。

#### ■ まちの将来ビジョン



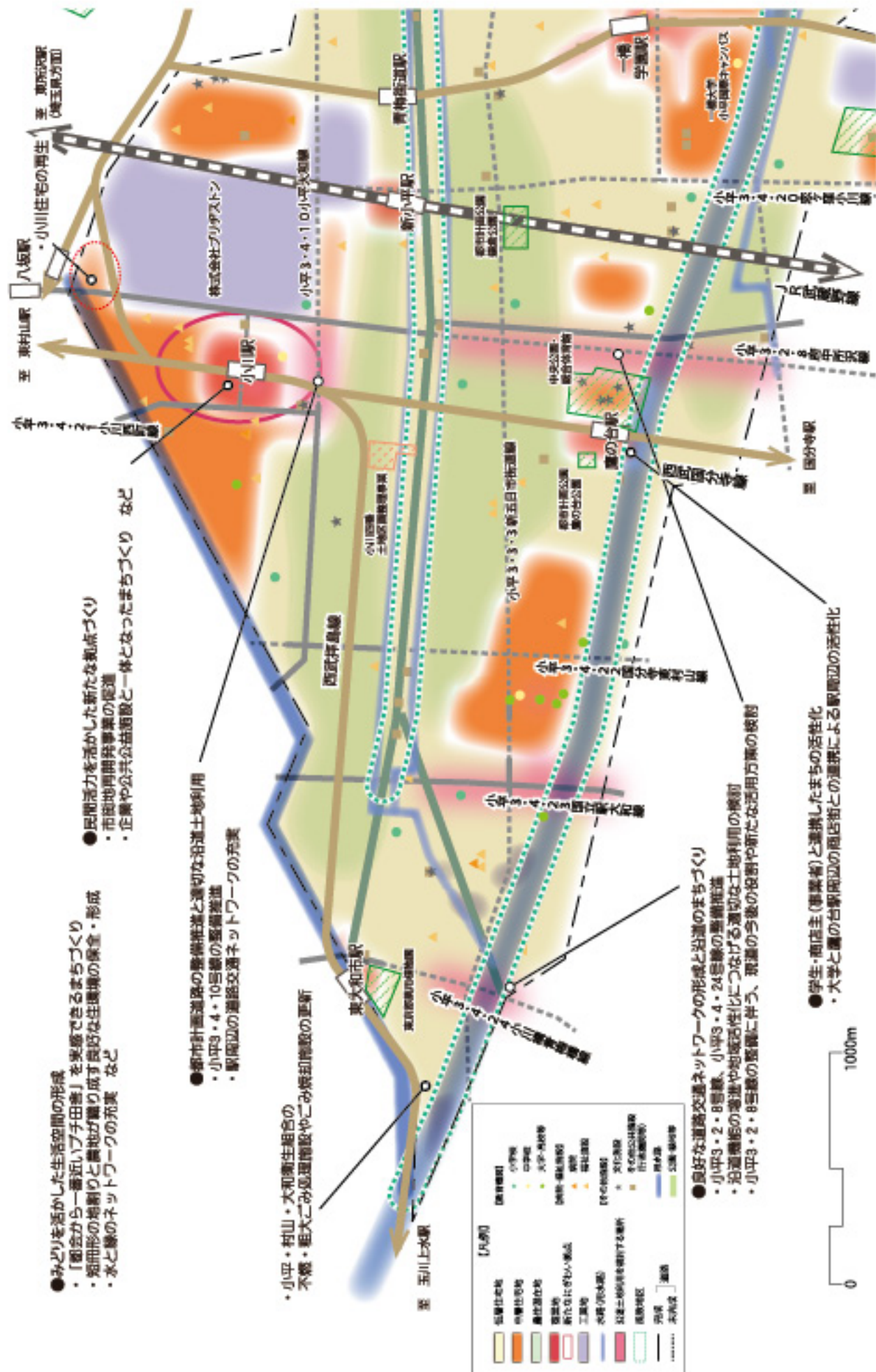
出典：「小川駅前周辺地区 まちづくりビジョン」

#### ③小川駅周辺地区の整備に伴う周辺へのまちづくりの効果

- 市街地再開発事業などによるまちの整備により、買い物、医療、福祉などの多様な都市機能が集積されることで、近隣の拠点における都市機能の不足を補います。また、駅前広場や幹線道路の整備により、誰もが円滑にバスやタクシーなどの公共交通機関に乗り継げる交通結節点として、地域の内外に住む人や、学校・職場に通う人たちが集まるにぎわいの拠点ともなり、さらなる地域全体の活性化につながります。
- 市街地再開発事業などにより生み出された空間は、みどりや周辺のまち並みと調和した魅力的な景観を形成し、府中所沢線（小平3・2・8号線）や野火止用水にも近接していることから、歩行者や自転車利用者による回遊性を高めるうえでの拠点となります。
- 小平大和線（小平3・4・10号線）の整備により、二中通りや中宿通りへの通過交通が減少し、踏切などによる渋滞も解消され、再開発事業による駅周辺の生活道路の改善もあいまって、誰もが安全、快適に通行できるまちになります。同時に、緊急車両等が通行しやすくなるなど防災機能が向上し、安全・安心で災害に強いまちになります。また、このようなまちの変化を契機として、地区内のみならず周囲の老朽化した建物の更新などへの動きを刺激し、周辺地区の防災性の向上も期待されます。



■ 西地域のまちづくり方針図





まちづくりカフェで出された「より良い地域づくり」に関するアイデア

## 西地域の魅力とは

平成27年度に実施した「まちづくりカフェ」では、より良いまちづくりの実現に向けたさまざまなアイデアを提案していただきました。

グループごとに発表された提案からは、西地域の資源は、用水路や「たから道」などを含めた多くの「みどり」であるという、参加者のみなさんの共通の思いがあることがわかります。



「たから道」とは、青梅街道両側の用水路の南にある細道で作られた空間のことで、昔は各家の庭先を結ぶ道として機能していたとのこと。

提案のテーマ

### “たからの細道・散歩道”

グリーンロードをみどりの幹線、たから道や用水路をみどりの毛細血管としてネットワークしていく



「毛細血管ネットワーク」の図（第8回まちづくりカフェにて）

#### ●散歩道のモデルルート

- ・駅を起点としたルートをつくる
- ・小さなループをつなぐようにルートをつなぎ、近道として利用することができる

#### ●親子で遊べる場所

- ・魚やザリガニを自由に採れる環境をつくる（川ガキの復活！）

#### ●風景を楽しむ場所

- ・オープンガーデンをつなぐ

#### ●自分たちでできそうなこと

- ・ウォーキングイベントで案内人になって昔の話などを紹介する

#### ●その他

- ・案内サインやマップをつくる など

提案のテーマ

### 新たな西のグリーンネットワーク ～みどりでつながる人と人～

西側だけでもたくさんの緑の拠点があり、これらを上手につないで新たな西のグリーンネットワークをつくり、人々が楽しい、交流し、活用できる仕掛けを考えよう



#### ●ほっこりできる空間づくり

- ・自然に親しめる空間（雑木林など）を活かして、みんながほっこりできる空間をアピールする（木漏れ日のなかで読書ができる、森林浴ヨガができる等）。

#### ●みどりの役割に応じたネットワークづくり

- ・野火止緑地公園周辺はほっこり空間、小川緑地は誰もが楽しく遊べる交流空間…等、それぞれの機能に応じた役割を決め、マップをつくってアピールする。

#### ●それぞれをつなぐ道は花いっぱい

- ・それぞれのみどりの拠点をつなぐ沿道は、花でいっぱいにして、楽しい道路空間にする。





## 2 中央地域 <小平駅周辺、青梅街道駅周辺、新小平駅周辺、一橋学園駅周辺>

### 2-1 中央地域の特徴

- 市域の中央部に位置しており、地域内には小平駅、青梅街道駅、新小平駅、一橋学園駅の4つの鉄道駅があります。
- 市役所や警察署、消防署、ルネこだいら、中央図書館、中央公民館のほか、東京むさし農業協同組合など、多くの公共公益施設が集まっています。
- 地域の南側には、大学などの教育文化施設など公的な機関がまとまって立地しています。
- 地域の南側に位置する一橋学園駅周辺は、国分寺方面へのアクセス性に優れていることから、市域を越えた国分寺駅周辺も生活圏の一部となっていることが特徴です。
- 地域内は、戸建ての住宅地や小平団地などの集合住宅地といった住居系土地利用が大部分を占めていますが、地域住民の高齢化に伴って、木造建築物や集合住宅の老朽化も進んでいるエリアが多くあります。

#### ■ 特徴的な資源・施設等

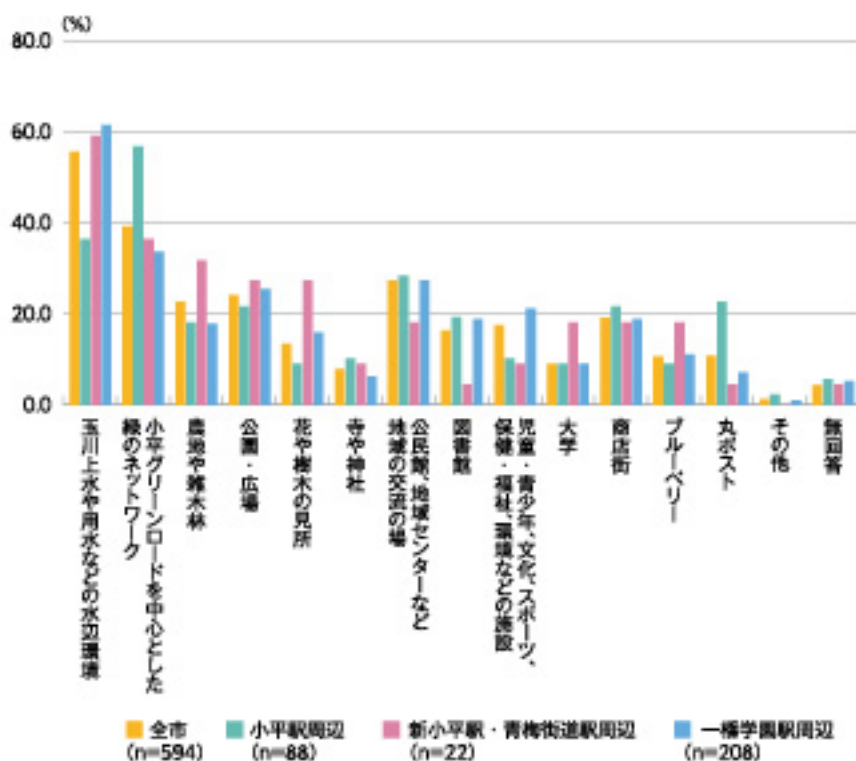
小平駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● ルネこだいら、なかまちテラスなど、芸術文化に親しむことができる施設、資源が点在しています。</li><li>● 駅北側には、都立小平公園やFC東京グランドなど、来訪者が多い施設が立地しています。</li><li>● 本市のシンボル道路であるあかしあ通りは、小平駅を起点に狭山・境線道と玉川上水線道までをつないでいます。</li></ul>
新小平駅・青梅街道駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市役所、中央公民館、中央図書館など主要な公共施設が集積するシビックゾーンが形成されています。</li><li>● 青梅街道駅近くには小平ファーマーズ・マーケットがオープンし、新たなにぎわいや交流が創出されています。</li><li>● 新小平駅と青梅街道駅は、徒歩数分の距離にあり、乗換えのための人の往来があることから、この間ににぎわいの創出が期待されます。</li><li>● 新小平駅は、都県をまたぐ広域な都市間を結ぶ路線であることから、まちの魅力を磨くことで、市外からの来訪者が期待できます。</li></ul>
一橋学園駅周辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 駅周辺には、個人商店が建ち並ぶ一橋学園駅周辺を象徴する商店街が形成され、平成28年度には、「こだいら観光まちづくり協会」や「こだいらコワーキングスペース すだち」がオープンするなど、活気があふれ、つながりが生み出される魅力的な空間となっています。</li><li>● 近隣には、関東管区警察学校、国土交通大学校、陸上自衛隊小平学校(駐屯地)、一橋大学小平国際キャンパスなどの教育施設と小平団地が近接して立地し、一団の空間を形成しています。</li><li>● 玉川上水以南には、戸建ての住宅地が広がるほか、ルネサスエレクトロニクス株式会社や国立研究開発法人情報通信研究機構などの集積がありますが、生活圏域はアクセス性に優れている国分寺駅や武蔵小金井駅方面となっています。</li></ul>



## ■ 主なまちづくりの動向

小平駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>小平駅北口地区は、市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実施を見据えたまちづくりの検討が進んでいます。</li> <li>駅北側において、駅へ南北方向のアクセス道路となる小平駅久留米線(小平3・4・19号線)や東西方向を結ぶ東京街道線(小平3・4・14号線)は、駅北口地区市街地再開発事業と一体となった整備が検討されています。</li> <li>市の中央を南北に縦断する市のシンボル道路であるあかしあ通りをグリーンロード化して、魅力ある都市空間を創出する取組みが進んでいます。</li> </ul>
新小平駅・青梅街道駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>青梅街道の風致地区は、現状において守るべき風致が認められない箇所が散見されることから、風致地区の指定の解除または他制度への移行など、見直しの検討が進められています。</li> <li>小平市リサイクルセンターは、施設や設備の老朽化などによるリサイクル施設の更新と施設解体後の跡地利用の検討が進んでいます。</li> <li>新小平駅の南側に位置する小平都市計画公園(3・3・1鎌倉公園)は、市の特徴的な農地の維持と農を身近に感じる空間の創出に向けた整備を検討しています。</li> <li>小平都市計画公園(3・3・1鎌倉公園)の整備にあたっては、周辺の道路などの基盤整備も含めた一体のまちづくりを検討しています。</li> </ul>
一橋学園駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>国分寺駅北口の市街地再開発事業を契機に、一橋学園駅前の商店街を中心とした地域の活性化について検討を求める声が挙がっています。</li> <li>駅周辺や玉川上水以南の戸建住宅地の一部においては、老朽化した木造住宅が密集しているエリアが見受けられます。</li> </ul>

■ 小平で大切にしたいもの、活かしたいもの(平成26年度市民アンケート調査 問5)





## 2-2 中央地域のまちづくりの方針

中央地域の中でも新小平駅と青梅街道駅周辺のエリアは、市役所、健康福祉事務センター、警察署、消防署など主要な行政機関が集積していることから、引き続き本市のシビックゾーンとして機能の充実・強化を図るとともに、災害時には災害対策本部などの拠点としての機能維持に向けた整備を図ります。

さらに、新小平駅の周辺は、開発余地を多く残すエリアであることから、周辺の住みよい住環境を活かしたまちづくりを進めるとともに、都県を越えた来訪者の玄関口にふさわしいにぎわいと憩いの場の整備を進めます。

小平駅北口地区では、市街地再開発事業の実施に向けた検討が進められていることから、今後は駅南口との連携を視野に入れ、拠点性の向上を図ります。また、小平駅南口から南方に伸びる本市のシンボル道路であるあかしあ通りでは、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」に基づき、緑豊かな都市空間の実現に向けた取組みを進めます。

市の南に隣接する国分寺市では、国分寺駅北口地区市街地再開発事業が進められており、中央線沿線における拠点性が高まっていることから、国分寺駅との機能分担・連携関係に配慮した利便性の高いまちづくりを進めていきます。

### ①シビックゾーンを有する地域としての拠点性の向上

- 公共施設が集積する新小平駅、青梅街道駅周辺地域は、安全・安心・快適なまちづくりを支える本市の防災拠点として、市役所を中心とした防災機能の向上を図り、本市のシビックゾーンとしてふさわしいまちを形成します。
- 新リサイクルセンターは、市民の生活から排出されたビン・カンなどの資源物の中間処理を行うとともに環境学習の場として整備し、建物の緑化や太陽光発電の設置を行い、周辺環境と調和したデザインとします。また、敷地内東側は、イベントなどでもできる多目的広場や健康遊具などを整備し、地域の憩いの場として活用します。

### ②良好なみどりの空間の保全・活用

- 新小平駅は、北は埼玉県方面、南は川崎方面とつながる、南北方向への広域交通の結節点となっており、市外から来訪する方の本市の玄関口となるため、新小平駅周辺の景観形成に配慮するとともに、小平らしい農を身近に感じる農業公園として小平都市計画公園(3・3・1鎌倉公園)の整備に向けた取組みをするなど、訪れたい魅力あるまちづくりを進めます。また、公園整備にあたっては、隣接する新五日市街道線(小平3・3・3号線)の一部区間などの周辺の基盤整備も検討し、青梅街道駅周辺との回遊性を高めるまちづくりのあり方を検討するなかで、健康増進にもつながるまちづくりを進めます。
- 小平の歴史的な郷土風景を伝える風致地区について、現状でその存在が失われている新小平駅周辺および青梅街道駅周辺においては、風致地区の指定見直しと他の制度への移行、また周辺の緑の確保に向けたあり方について検討を行います。

### ③民間活力を活かした新たな拠点づくり

- 小平駅北口地区では、平成27年9月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められていることから、引き続き事業化の促進を図ります。さらに、都立小平霊園などの周辺のみどりとの調和を図りつつ、商業・業務機能や住宅機能などの集積によるにぎわいの創出、駅前広場の整備による利便性の向上を図るとともに、災害に強い自立した拠点の形成をめざします。
- 優先整備路線に選定された小平駅久留米線(小平3・4・19号線)整備は、小平グリーンロードや都立小平霊園のみどりとの調和を図りつつ、歩行者や自転車利用者の通行に配慮した道路整備を東京都や近隣市との連携により進めます。また、市街地再開発事業により拠点性の高まる小平駅北口地区へのアクセス性を高めるとともに、周辺市街地の防災性、安全性の向上に資する整備を進めます。

### ④ひとが中心の魅力的な都市軸の形成

- 小平駅を起点とした、まちのシンボル道路であるあかしあ通りは、小平駅北口再開発事業や「なかまちテラス」との連携を図りつつ、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」に基づく、市民、事業者との連携により、歩いて楽しい、人が中心の魅力的な都市空間を形成します。さらに、観光資源としての役割も期待し、周辺地域の産業活性化につながる整備のあり方を検討します。

### ⑤商店街を中心としたまちの活性化

- 一橋学園駅周辺は、隣駅である国分寺駅の北口再開発事業による新たなにぎわいの創出を見据えつつ、地域にふさわしい商店街を中心とした魅力と活気にあふれるまちの維持・向上に向けて、地域住民の交流の場づくりにより協働のまちづくりを進めるなど、必要な方策を検討します。

### ⑥老朽化したまちの再生

- 中央地域は、建築年数の古い建物が多く、一部の地区では老朽化した木造住宅が密集したエリアが見受けられます。そのため、特に道路や公園などの都市基盤が不十分であると認められる地域については、解決に向けた手法を検討しつつ、防災性の高い安全な住環境の形成をめざします。
- 老朽化した大規模団地において、再生に向けた動きがある場合は、まちの広範囲に影響を及ぼすことから、地域特性に応じたまちづくりを促すとともに、住民主体の地区まちづくりに向けた支援を行っていきます。





## 2-3 鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針<小平駅周辺地区>

小平駅北口周辺地区は、公共交通への乗継ぎが不便、地区内や地区の外周道路の問題、まちのにぎわいの低下、防災面への配慮など、多くの課題を抱えています。このため、平成25年2月に小平駅北口地区再開発協議会を発足し、平成27年9月には小平駅北口地区市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実施による、課題解決に向けたまちづくりの検討が進められています。

東京都の「都市再開発の方針」では、この地区は計画的な再開発が必要な市街地とされており、この約2.1haについては、特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき相当規模の地区(再開発促進地区)に位置づけられています。そのため、駅前広場などの公共施設を整備し、商業施設、都市型住宅などの都市機能の集積を図っていきます。

また、再開発事業と並行して、優先整備路線となった小平駅久留米線(小平3・4・19号線)の整備を推進し、東京街道線(小平3・4・14号線)の整備を促進することで、市の名前を冠した「小平駅」にふさわしい拠点としての活性化を図ります。



再開発事業検討区域  
(小平駅北口地区)

### ①小平駅周辺地区の状況

- 駅利用者は、市内では比較的若い世代が多い傾向があるものの、都市機能の集積を図る余地がないなど、駅前としての優位性を活かしてきれていないため、若い世代に魅力あるまちづくりが求められています。
- 駅周辺には日常生活に必要な商業施設が少なく、駅前であるにも関わらず周辺住民の生活利便性は高いとは言えず、郵便局や金融機関に関する要望も多いことから、駅前にふさわしい商業・業務機能の集積が望まれています。
- 駅北口は、駅前広場が整備されていないことから駅前へのバスの乗入れがなく、小平市コミュニティタクシー大沼ルートの利用に際しては東京街道沿いまで移動する必要があり、交通結節点としての機能向上が必要です。
- 市街地再開発事業を計画している区域内の道路は、十分な幅員が確保できておらず、行き止まりやクランク状の道路、敷地の接道状況が不十分な部分もあり、また線路沿いには側道がないことから、駅周辺の円滑な交通動線やオープンスペースの確保、および防災面への配慮などが必要です。
- 周辺の交通について、駅西側にある踏切付近は、交差点を横断する歩行者・自転車と自動車とが交錯しており、安全性の問題があります。また、この踏切については、国が公表した「踏切安全通行カルテ」により、「開かずの踏切」として抽出されるなど、緊急に対策の検討が必要な踏切とされています。
- 駅周辺の利便性を求める声が多い一方で、周辺のみどりとの調和を図ったまちづくりへの要望も多く、駅前整備に際しては、周辺の自然環境との調和やみどりの創出に配慮することが必要です。

### ②小平駅周辺地区のまちづくりの方針

- 小平駅北口地区は、駅周辺を含めた地域活性化や周辺の道路整備に伴う駅への交通利便性の向上を図るため、駅前の高度利用により住宅や商業施設の共同化やオープンスペースの創出など土地の有効利用を進め、自動車や自転車の駐車場を設置するなど、市街地再開発事業と一体のまちづくりを推進します。
- 北口の駅前広場は、交通結節点としての機能と都市の広場機能に配慮した形状にすると同時に、ユニバーサルデザインに配慮することで周辺と一体となった開放感を創出し、駅利用者のみならず駅に集う人々のにぎわいの醸成を図ります。
- 駅前の空間には、建築物への緑化を図るとともに、樹木などの植栽やポケットパークなどによるみどりの演出を行い、また北側の用水路を活かすことで、都立小平公園などのみどりと調和した個性ある魅力的なまちづくりを推進します。
- 優先整備路線となった南北方向の小平駅久留米線(小平3・4・19号線)などの道路整備や駅前広場整備の推進により交通利便性を高めるとともに、円滑な道路交通ネットワークの確保を図ります。また、整備にあたっては、十分な歩行者空間の整備、無電柱化、沿道の緑化により周辺のまち並みとの調和を図り、沿道については、風致地区の見直しや建築物の不燃化など、適切な土地利用を図ることで、一体的なまちづくりを推進します。
- 市街地再開発事業に合わせ、「開かずの踏切」などの課題解消に向けて検討し、駅西側の踏切を利用する歩行者や自転車利用者の安全性の向上を図ります。
- 小平駅周辺には、広域避難場所である都立小平公園やFC東京グラウンドなどのいっつき避難場所、災害医療支援病院である多摩済生病院などがあり、既に防災面における充実がみられますが、市街地再開発事業や都市計画道路の整備により、さらなる防災機能を有する拠点性の高いまちの形成を図ります。

### ③小平駅周辺地区の整備に伴う周辺へのまちづくりの効果

- 小平駅北口地区市街地再開発事業によるにぎわいの創出、小平駅久留米線(小平3・4・19号線)整備による駅へのアクセス性向上により、市内ばかりでなく市外からの来訪も見込まれ、本市の新たな玄関口としての役割が期待できます。
- 駅北側は、都立小平公園へつながる小平駅久留米線(小平3・4・19号線)の整備に伴う歩行者空間の整備のほか、FC東京グラウンドにつながる東京街道線(小平3・4・14号線)の歩道整備の促進を図るとともに、駅南側は、市のシンボル道路であるあかしあ通りからルネこだいら、なかまちテラスなど、駅周辺一体として地域資源を活用し回遊性を高めることで、市外の人にとって訪れたい魅力的なまちとなり、これにより育まれる人と人とのつながりが市民の愛着を生み、いきいきとしたくらしのある健康まちづくりにもつながることが期待されます。





## 中央地域のまちづくり方針図





まちづくりカフェで出された「より良い地域づくり」に関するアイデア

## 市民と市の“あかしあ通り”に対する思い

平成27年度に実施した「まちづくりカフェ」では、より良いまちづくりの実現に向けたさまざまなアイデアを提案していただきました。中央地域のグループでは、「あかしあ通り」をより魅力ある通りにしたいという思いから、さまざまなアイデアが提案されました。

参加者のみなさんからは、小平市には市をとり囲むようにグリーンロードがあるので、あかしあ通りも緑や花のあふれる道にして、みどりの道をつなごうというアイデアが出されました。その他にも、うどんの店を呼び込み、あかしあ通りを「うどん道」にしようという、おもしろいアイデアも提案されました。



市民にとって「あかしあ通り」は市のメインストリートであるという意識が強く、本マスタープランにおいても、市の「シンボル道路」として位置づけています。

### 提案のテーマ

## “あかし通りグリーンロード化プロジェクト”

あかしあ通りを花いっぱいの道にし、グリーンロードとつなげて周遊したくなる魅力ある道にする



あかしあ通りグリーンロード化プロジェクトのイメージ  
(第8回まちづくりカフェにて)

### ●花いっぱいの道づくり

- ・あかしあ通りを緑や花でいっぱいにする

### ●歩行者・自転車が通って楽しい空間

- ・駅前通りの通りに屋根をつけて、雨でも傘をささずに歩けるようにする
- ・あかしあ通りにもサイクリングロードをつなげる

### ●芸術・文化を楽しむ

- ・彫刻を置く
- ・子どもの作品を飾ってコンクールをする

### ●うどん道

- ・小平はうどんが有名なので、店を出してもらいうどんの道という新たなイメージをつくる

### ●その他

- ・イルミネーションをつける。 など

実は、市では、平成22年に魅力ある都市空間のづくりを目的に、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」を定めています。参加されたみなさんは、この存在を知らずにアイデアを出していたようなので、市民と市の思いが同じだったと言えるのではないのでしょうか。



「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」



#### 3-1 東地域の特色

- 市域の東部に位置し、地域内には市内で最も乗降客数が多い花小金井駅があります。
- 駅北口は面的な整備がなされ、南口にも駅前広場が設けられていることなどから、駅周辺の都市基盤は市内の他の駅に比べて充実しています。
- 駅北側には、多くの集合住宅や商業施設が立地しており、市内の鉄道駅のなかで最も都市機能が集積した拠点として認知されています。
- 地域全域をみると、住宅系土地利用が大半を占めており、南側は大規模なマンション建設により、大幅な人口増が見込まれています。
- 地域の北側には貴重なオープンスペースでもある一団の農地や東部公園、南側には広域避難場所でもある小金井カントリー倶楽部や都立小金井公園など、まとまった緑の空間が広がっており、これら緑の存在は市域の周囲を取り巻く小平グリーンロードとあいまって本地域の良好な水と緑の空間形成に大きく寄与しています。

#### ■ 特徴的な資源・施設等

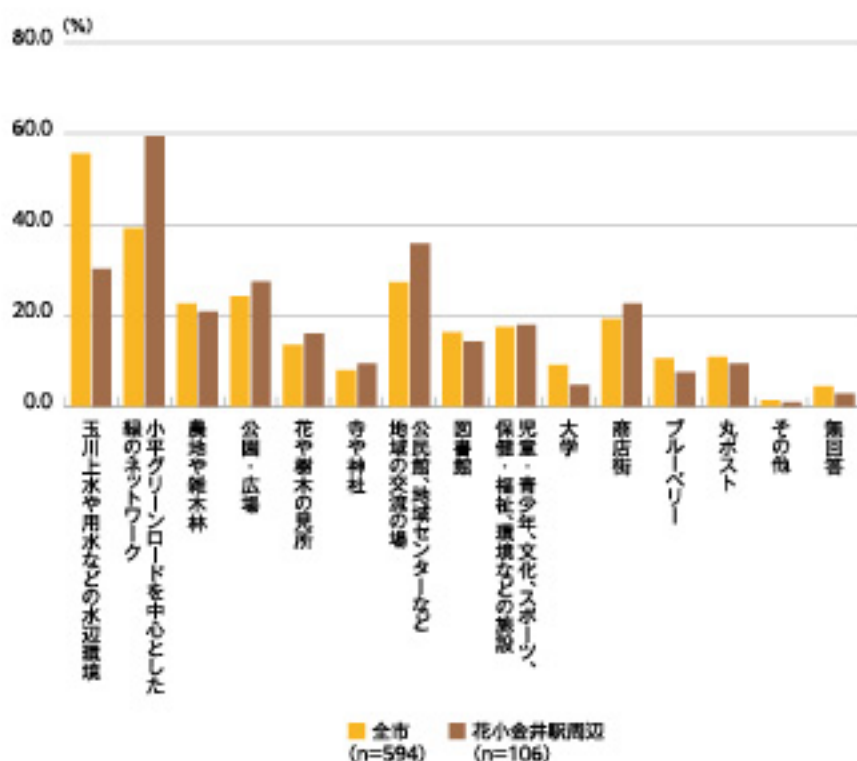
花 小 金 井 駅 周 辺	<ul style="list-style-type: none"><li>● 花小金井駅周辺は、駅前広場や周辺の道路などの都市基盤が充実しています。</li><li>● 都心まで約20分と利便性が高く、マンションなどの集合住宅や商業施設がほどよく集積していることから、交通や買い物の利便性に恵まれた都市型居住が可能なエリアとなっています。</li><li>● 駅に隣接する小金井街道は、南の国分寺駅や武蔵小金井駅から北の東久留米市内まで、民間バス路線が充実しており、市域を越えて南北の交通利便性が高くなっています。</li></ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域の南側には、小金井カントリー倶楽部や都立小金井公園など、まとまった緑の空間が広がっています。また、玉川上水沿いには、かつて観光地として名高かった小金井桜の名勝があります。</li><li>● 鈴木町地域には、日本における旧石器時代を代表する遺跡の一つである鈴木遺跡があります。</li><li>● 東地域と中央地域にまたがるエリアには、災害拠点病院である公立昭和病院があります。</li><li>● 公立昭和病院に隣接した丸井総合グラウンドおよび地域の南側にある千代田区グラウンド(千代田区立花小金井運動施設)は、市内でも数少ないヘリコプター臨時離着陸場候補地となっています。</li></ul>



## ■ 主なまちづくりの動向

花 小 金 井 駅 周 辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅南側では、優先整備路線に選定された新五日市街道線(小平3・3・3号線)の整備促進による広域道路ネットワークの形成が期待される一方で、整備される道路が、小平グリーンロードや商店街の一部と重なっているなどの課題もあります。</li> <li>・東京都の「踏切対策基本方針」では、西武新宿線の田無～花小金井駅付近が鉄道立体化の検討対象区間として抽出されているため、円滑な交通の実現や市街地の一体化が期待されています。</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業社宅跡地の土地利用転換により、今後の周辺へのまちづくりの影響について留意する必要があります。</li> <li>・鈴木遺跡は国指定史跡化をめざしており、遺跡包蔵地の保存のため、基本的には原っぱ状の広場としての整備を検討しています。</li> </ul>

## ■ 小平で大切にしたいもの、活かしたいもの(平成26年度市民アンケート調査 問5)





## 3-2 東地域のまちづくりの方針

東地域は、市内で最も乗降客数が多く、都心まで約20分というアクセス性に優れていることから、花小金井駅の特性を活かしたまちの形成を図ります。そのため、商業集積のある駅北口に加え、新五日市街道線（小平3・3・3号線）の整備に伴い駅南口のにぎわいを創出するとともに、西武新宿線の田無から花小金井駅付近の鉄道立体化による一体のまちづくりを実現し、都市機能の充実や駅へのアクセス性向上を図ります。

また、地域の南側に位置し国指定史跡化をめざしている鈴木遺跡は、文化・交流の拠点と位置づけ、地域の誇りとなる空間としての整備を図ります。さらに、地域の貴重な緑の空間としての役割を担っている都立小金井公園や玉川上水などとのネットワーク化を図り、回遊性を高めるなど、周辺のみどりや良好な住環境と調和した魅力的なまちづくりを進めます。

さらに、東地域には都立小金井公園をはじめ、東地域と中央地域にまたがるエリアに公立昭和病院、ヘリコプター臨時離着陸場候補地となっている丸井総合グラウンドや千代田区グラウンド（千代田区立花小金井運動施設）などがあり、これらの空間は市内の防災上の重要な地域となることから、花小金井駅周辺を中心としたにぎわいの集積と、これを囲むゆとりあるみどりの空間の調和を図るなかで、防災面の強化も図っていきます。

### ①にぎわい拠点としての充実・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 花小金井駅周辺は、市内で最もにぎわいのある拠点であると市民から認知されており、東京都の方針でも多摩地域における生活中心地という位置づけとなっています。そのため、周辺地域のみどり豊かな住環境との調和を図りつつ、拠点性を高めるさまざまなまちの動きに配慮しながら、子育て世代を中心とした若い世代から高齢の世代にとっても魅力的な都市機能の充実・強化を図っていきます。

### ②質の高い幹線道路整備と適切な沿道まちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・

- 優先整備路線となった新五日市街道線（小平3・3・3号線）は、市内を東西に横断する主要幹線道路として整備を促進します。一方で、一部の区間は小平グリーンロードと重複することから、良好なみどりの保全・創出、歩行者や自転車走行空間の確保など、周辺環境と調和した質の高い幹線道路の整備を東京都へ働きかけます。
- 新五日市街道線（小平3・3・3号線）の整備区間は、地域ごとにさまざまな特徴を有していることから、沿道の土地利用の混乱や景観の質的低下などを防ぐため、地域特性に応じた土地利用の規制・誘導方策について、地域住民の参加により検討を進めます。



#### ③駅周辺の一体的なまちづくり.....

- 花小金井駅周辺の一体的なまちづくりや交通渋滞の解消などを図るため、新五日市街道線（小平3・3・3号線）の整備を促進し、これに伴い西武新宿線の田無から花小金井駅付近の鉄道立体化の実現に向けて、周辺地域のまちづくりに対する機運を高めると同時に、関係機関への働きかけを行います。

#### ④大規模敷地の配慮ある土地利用の促進.....

- 大規模敷地において土地利用転換が想定される場合には、周辺のみどり豊かな住環境に配慮し、調和の図られた適正な土地利用の誘導を行います。
- 東地域は、防災面において重要なまとまった空間があることから、市の防災面上、重要な位置づけがある敷地については、引き続きその役割の維持に向けた方策の検討や働きかけを行います。

#### ⑤良好なみどりの空間の創出.....

- 国指定史跡化をめざしている鈴木遺跡は、日本における旧石器時代の代表的な遺跡として、遺跡包蔵地の保存のため、基本的には原っぱ状の広場として整備し、市民の誇りとして親しまれる地域の文化・交流拠点の創出を図ります。





### 3-3 鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針<花小金井駅周辺地区>

花小金井駅周辺地区は、平成11年度に南口駅前広場が築造され、平成17年度には駅北口で住宅市街地総合整備事業と独立行政法人都市再生機構の直接施行制度により、駅前広場、アクセス道路の都市基盤施設とともに、商業施設、集合住宅や図書館などの公益施設が整備され、都市機能の集積による魅力的なまちとして、市民から認知されています。

この度、駅南口を東西に抜ける都市計画道路が優先整備路線として選定されました。また、西武新宿線の花小金井駅を含む区間については、東京都より鉄道立体化に向けた検討対象区間として抽出されています。

このことから、花小金井駅周辺地区のさらなる発展に向けた取組みを進めます。

#### ①花小金井駅周辺地区の状況

- 駅北口は、商業集積や公共施設などの立地によるにぎわいが創出されていますが、駅南口は駅前広場があるものの、北口に比べて魅力的な商業・業務機能の集積は少ない状況です。
- 駅西側に隣接する小金井街道の踏切は、南北の幹線道路の慢性的な渋滞を発生させ、また地域を分断させるとともに、幹線道路の渋滞を避けるための近隣道路への通過交通を増加させるなどの要因となっています。
- 東京都の「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」（平成28年）において、新五日市街道線（小平3・3・3号線）の内、一部区間（西東京市境～花小金井南町二丁目／小平3・4・17号線（小金井街道）～小平3・4・7号線（新小金井街道））が、優先整備路線に選定されました。
- 東京都の「踏切対策基本方針」（平成16年）では、「田無～花小金井駅付近」が、鉄道立体化の検討対象区間として抽出されています。
- 一方、新五日市街道線（小平3・3・3号線）は、小平グリーンロードや既存の商店街と重複する箇所も見受けられることから、みどりの保全方策や周辺住民の利便性確保に向けた検討を地域住民とともに進めていく必要があります。



#### ②花小金井駅周辺地区のまちづくりの方針

- 新五日市街道線（小平3・3・3号線）の整備促進とこれに伴う鉄道立体化の実現や駅南口の土地の有効利用、新五日市街道線（小平3・3・3号線）沿道の多様な地域特性を踏まえた土地利用を図ることで、駅南北の一体的なまちづくりが可能となることから、市の中心的なにぎわいの創出と周辺のみどりが融合した魅力的なまちの形成に向けて検討を進めます。また、検討にあたっては、地域住民の参加によるまちづくりを進めます。
- 幹線道路整備や鉄道立体化により、周辺の道路渋滞は緩和され、花小金井駅を中心とした人や車の広域に渡る道路ネットワークの充実・強化が図られるとともに、公共交通ネットワークの充実・強化を図ることで、花小金井駅周辺地区へのアクセス性が向上します。これにより、小平グリーンロードや都立小金井公園、国指定史跡化をめざす鈴木遺跡などを結ぶネットワークを形成し、人の交流が生まれ、市民のまちに対する誇りの醸成と来訪者にとって魅力的なまちの形成が促進され、地域の活性化が期待できます。
- 鉄道立体化によるまちの一体化、避難場所や病院までの交通遮断の解消を図りつつ、幹線道路整備に伴う延焼遮断帯の構築など、災害に強いまちづくりを進めます。

## 東地域のまちづくり方針図

